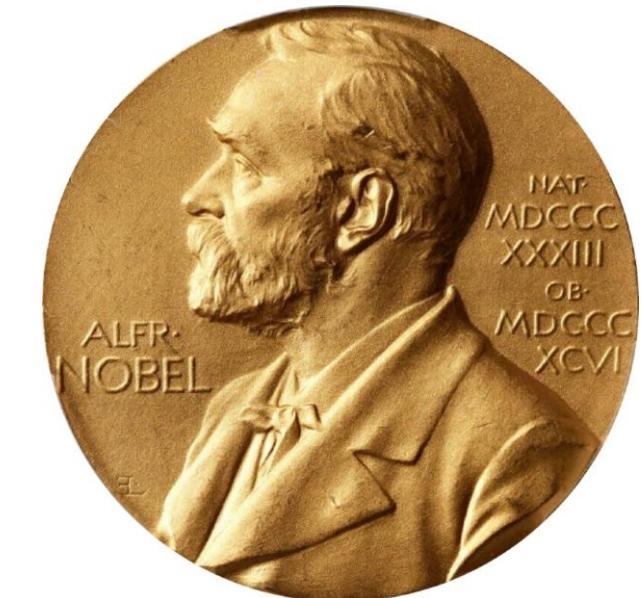




ノーベル賞が示した免疫の新常識

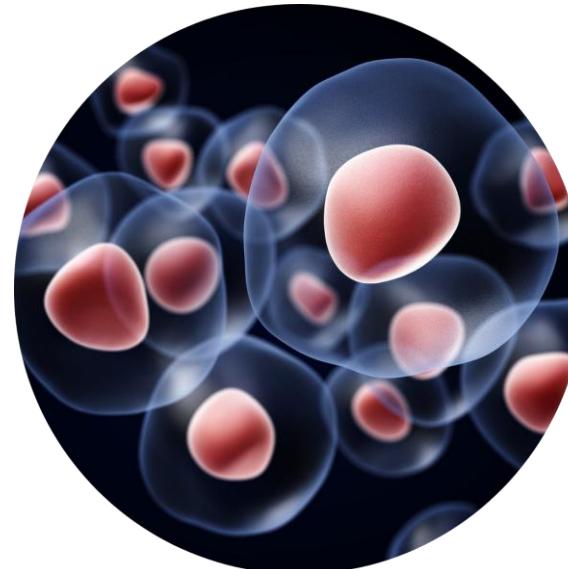
—制御性T細胞と酪酸がつくる“炎症のない体”



今回のノーベル賞が “免疫のブレーキ＝制御性T細胞”に注目しています。

制御性T細胞は

免疫の暴走(炎症)を止める唯一のブレーキです。



2025年10月6日 報道



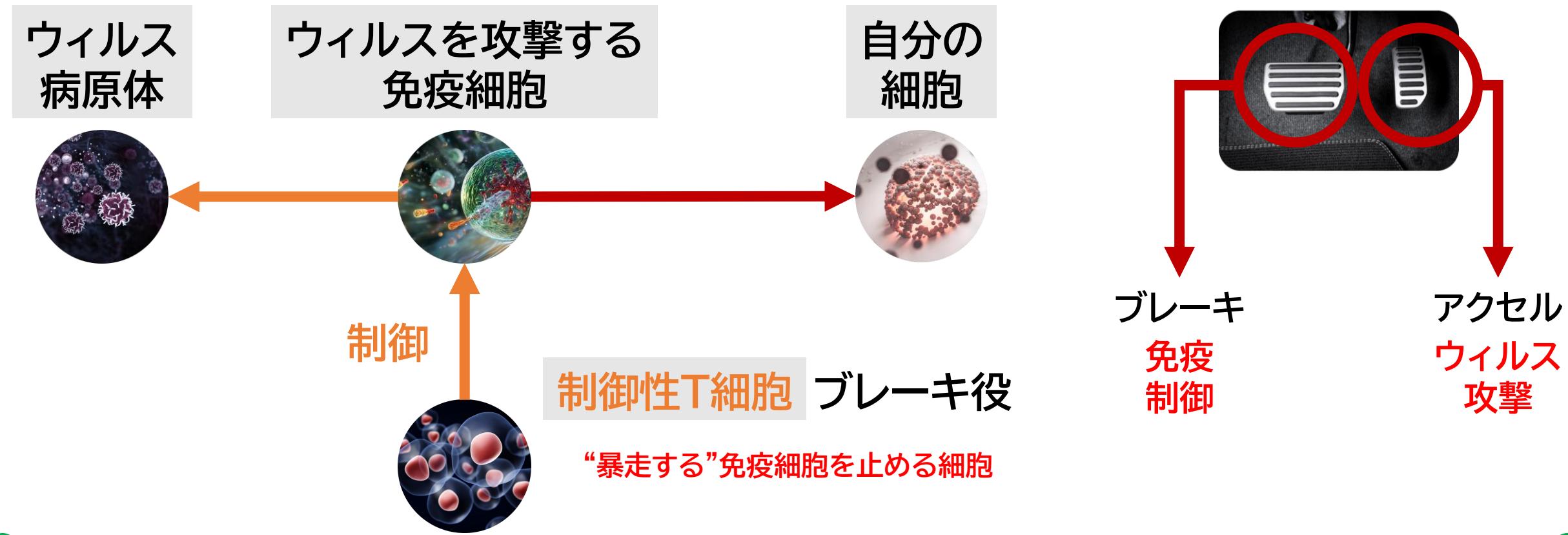
坂口 志文

大阪大学栄誉教授 / 京都大学名誉教授
免疫学フロンティア研究センター特任教授

2025年12月10日 授賞式

酪酸は“免疫ブレーキ”を動かす燃料

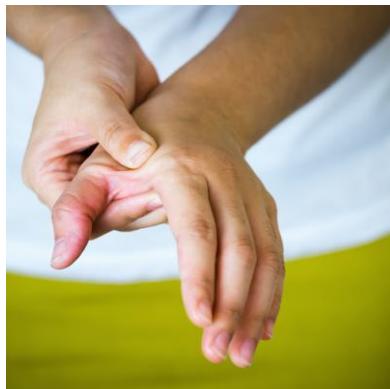
酪酸が不足すると、
免疫ブレーキが効かず、炎症は暴走します。



あなたの不調、その“正体”は炎症です

体の不調、実はすべて“ひとつの原因=炎症”です。

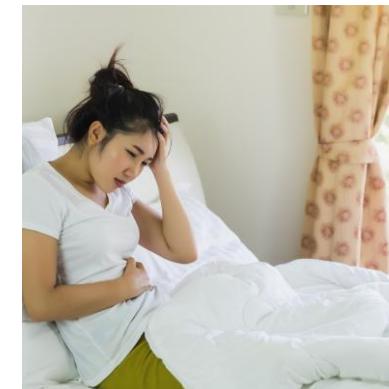
頭痛



不眠



便秘



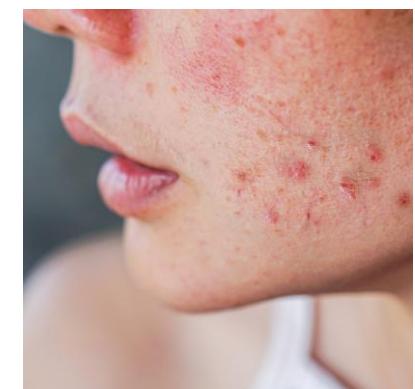
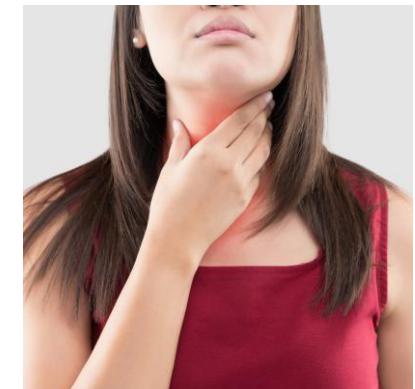
肌荒れ



アレルギー



だるさ



炎症が止まらない原因は“酪酸不足”

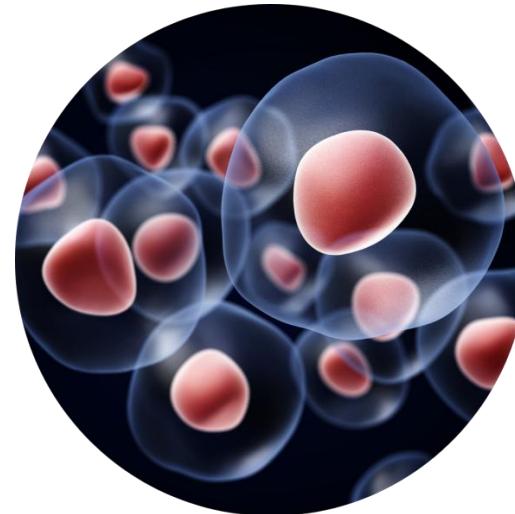
炎症が“止まらない体”は、酪酸不足によって免疫ブレーキが働かない状態です。

酪酸が担う2つの役割: 免疫ブレーキ × 粘膜バリア

酪酸が身体を根本から整える2つのポイント

ポイント①

免疫ブレーキ
(炎症を止める)



ポイント②

粘膜バリア
(炎症を起こさない体をつくる)



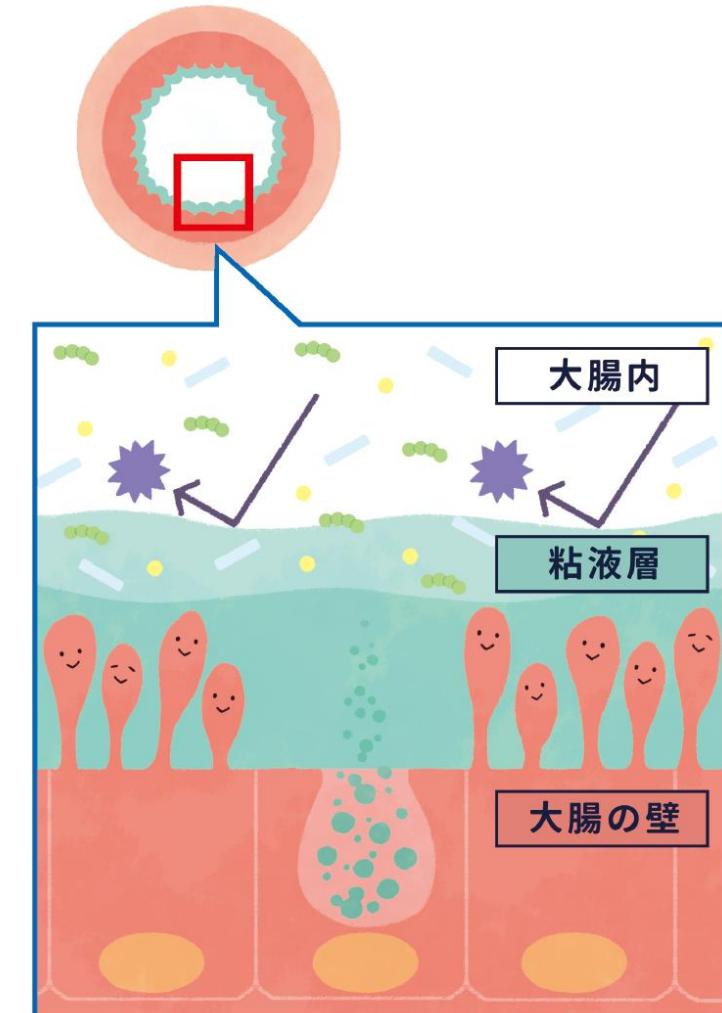
粘膜の材料の60~80%は酪酸。薄い粘膜が炎症を生む

腸の粘膜は“体を守る城壁”。

しかし、現代人の粘膜は薄く、
ウィルスが直接当たり炎症を起こしやすい状態です。

そして——
粘膜をつくる“材料”的60~80%が酪酸。

酪酸が十分にあることで、
粘膜は“厚く・強く”再生し、
炎症を起こさない体の土台が整います。



食事だけでは必要量の酪酸を作れない理由

酪酸は腸内細菌(酪酸菌)がつくる物質。

食物繊維や発酵食品だけでは、
多くの人が十分な量をつくれません。

1日の必要量は食物繊維300g ※水分除く

食物繊維を食べているだけで必要量は作れません。

だからこそ、
“酪酸そのもの”を補う アプローチが注目されています。



酪酸菌では不十分。即効性があるのは“酪酸そのもの”

「酪酸菌」と「酪酸」は全く別物です。

- 酪酸菌は“酪酸をつくる菌”
- 定着しない人が多い
- 酪酸ができるまで時間がかかる

即効性があるのは「酪酸そのもの」。

だから――

酪酸そのものを“直接届ける”
Raqsun+ が生まれました。

